

常照

第774号

雨の降る

六月、天気予報を見て「雨が降るな、梅雨つゆかな」と感じるこの頃。「悪い天気などない、ただ自分の都合つごうに悪いだけだ」と自分に言い聞かせながらもやはり浮かないのであります。実際、運動会を控えている人には悪い天気でも、畑仕事をしている人にはこの上なく良いお天気になったりするので。中国では梅の実じゆくが熟する時期に降る

雨だということから、梅雨と呼ばれるようになったのだとか。湿気は溜たまるし、カビが生はえると思う一方で、その雨が大地に根を張るものにとつては恵みの雨、実りをもたらすありがたい雨となるとということもまた事実であります。

藁屋わらやの雨と仏法は外に出て聞け

こんなことわざがあります。藁屋わらやの雨と仏法は家の中には聞こえてこないという意味で、どちらも外へ出て実際に確かめなさいという意味です。

藁屋わらやに降る雨というのは音のしないことのたとえに使われる言葉だそうです。わらぶき屋根の家の中では雨が降っても音がしないから、外に出て雨

音を聞いてみなければわからない。家
 の中が静かというのは大変結構なこと
 であります。外に洗濯物を干してお
 りましたらそれこそ大惨事だいざんじになつてし
 まうのであります。屋根というものに
 守られているからこそその安心感が思わ
 ぬ弊害へいがいを招まねいてしまふのであります。

同様に、仏法のありがたい教えも家
 にいたのでは聞くことができせん。
 積極的にお寺の法要・法座に出かける
 などしてお説教を聴こうとする心がけ
 が大切であります。

理由がある

お寺の法座に足を運んで聞くべきだ
 という言葉には、いくつか理由がある

と思います。

一つには何事も独学で学まなぶよりも、
 直接知っている人に教わる方が正確な
 ことを学ぶことができるということが
 あると思います。テレビ番組や書籍で
 も仏教の何たるかを学ぶことはできま
 す。それこそパソコンやスマホなんて
 ものが贅沢品ぜいたくひんでも未来の品でもなく身
 近にあるのが現代社会であります。調
 べようと思えば指先ひとつで仏教の何
 たるか、浄土真宗の教えとは、なんて
 ものがどこでも簡単かんたんに検索できます。
 実に便利になつたわけですが、真偽の
 ほどは定かではないということもよく
 よく心得こころえしておかなくてはなりません。
 ちゃんとわかつている人に聞かないと
 余計にわからなくなることだつてある

のです。

二つめに。私たちが漠然と抱えている不安や悲しみ、空しさのすべてをパソコンが解決してくれるわけではないのだということ。人にやさしく、親切にしてももらった時に私たちは温かさ・優しさを感ずることができません。子どももの笑い声や笑顔、泣いている顔だつて心を温めてくれますし、時には「大丈夫？」とか「大変だったね」とか「わかるよ」という言葉ひとつかけてもらうだけでも私たちは救われたりするのです。

三つめに。家で大きなテレビ画面で映画やコンサートを見るのと、映画館や会場に行つて鑑賞する時の違いを思い浮かべてください。どれだけ一流の

機材を揃えても家では一人です。映画館やコンサート会場ではたくさんのお客が一緒です。それが煩わしいと思う方もいらつしやるでしょうが、臨場感や感動はケタ違いですね。その場ですか味わえない感動は、知らない誰かがいるからこそ分かち合えるものです。場合によつては共有することでもっと大きなものを得ることもあります。知らない誰かが同じ目的で集まる。お寺の法座も一緒です。ご住職だけだけでなく、お説教に来られたご講師だった方、法座の際に縁あつて隣に前に座った方があなたのことをわかつてくださるかもしれない。それは家の中では出会えない優しさでしょう。何も難しい話を聞いて勉強しなさいというわけ

ではないのです。勉強したい人もいてよし、すぐに忘れるけど話を聞きたいという人もいてよし、この気持ちを聞いてほしいという人もいてよし。まずは外に出てみなければ出会えないのです。そして仏法に出会うということ、私たちの考え方や生き方が変わっていくということ。お経の文言があなたを変えてくれるのか、お寺で出会った人があなたを変えてくれるのかそれはわかりません。藁屋の雨と仏法は外に出て聞けとはきつとそういう意味だと私は思うのです。気づきなさい、変わつていきなさいという意味だと思います。そう考えるとこのことわざ、現代社会にとてもよく当てはまると思いませんか？

七月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 七月七日(土)～十一日(水)

講師

東京教区群馬組蓮照寺

松岡 満雄 師

○後期 七月十三日(金)～十六日(月)

講師

山陰教区千須賀組永照寺

吉川 恭 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (011-34) 二二一〇七四四番
 FAX (011-34) 二九一四〇八〇番
 テレホン法話 二七一六一六番